

総務委員会会議録

- 1 期 日 令和3年6月10日(木)
- 2 会 場 第3委員会室
- 3 開会時刻 午前10時51分
- 4 閉会時刻 午後11時29分
- 5 出席者 委員長 寺田 幸弘 副委員長 藤澤 恭子
委員 松本 均 委員 草賀 章吉
委員 山本 行男 委員 鈴木 久裕
委員 鷺山 記世
(当局側) 理事兼総務部長、理事兼企画政策部長、危機管理部長、
消防長、南部行政事務局長、会計管理者、
議会事務局長、所管課長
(事務局) 議事調査係 山崎貴哉
- 6 審査事項
・議案第83号 令和3年度掛川市一般会計補正予算(第5号)について
- 7 会議概要 別紙資料のとおり

以上のとおり、報告いたします。

令和3年6月10日

市議会議長 松本 均 様

総務委員会委員長 寺田 幸弘

議 事

午前10時51分 開議

○委員長（寺田幸弘君） ただいまから総務委員会を開会いたします。

今定例会におきましては、本日、当委員会に付託されました議案は、分割付託されました議案第83号、令和3年度掛川市一般会計補正予算（第5号）についてであります。よろしく御審議をお願いいたします。

審査に入る前に、私から御連絡いたします。

初めに、当局より説明資料の配付の申出があり、委員長において許可いたしましたのでお手元に配付いたしました。

次に、当局より小型パソコンの使用について申出があり、委員長において許可いたしました。

続いて、お手持ちの携帯電話につきましては、原則として使用が禁止となります。ただし、必要に応じて委員長において判断しますので、使用する際は委員長の許可を得るようお願いします。

続いて、発言の際には、挙手の上、委員長の許可を得てから、必ず自席のマイクのスイッチを入れて発言するようお願いいたします。

また、質疑においては、説明を求める場合、まずは議案等のページ及び款項目等を示し、疑問点を明確に発言することとし、答弁も簡潔に分かりやすくお願いし、一問一答方式でお願いします。

では、よろしくお願いいたします。

それでは、審査に入ります。

議案第83号、令和3年度掛川市一般会計補正予算（第5号）について、第1条歳入歳出予算の補正のうち、歳入中、所管部分、歳出中、第2款総務費、第1項（35目を除く）を議題とします。

初めに、財政課の説明をお願いします。

増田課長。

○委員長（寺田幸弘君） ただいまの財政課の説明に対する質疑をお願いします。

よろしいでしょうか。

〔「なし」との声あり〕

○委員長（寺田幸弘君） それでは、質疑を終結します。

次に、企画政策課の説明をお願いします。

二村課長。

○委員長（寺田幸弘君） ただいまの企画政策課の説明に対する質疑をお願いします。

質疑ありませんか。

山本委員。

○委員（山本行男君） もう少し仕事の内容を細かく、こういうことを具体的にやるんだよというのを聞きたい。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 内容としましては、企業との連携の中で、その企業がどんなことができるのか、どんなことを目指しているのかということで、そういった取り組みについてこんなことができるよということをまず宣言していただこうと思っております。それに対して、地域課題を情報共有する中で、どことどこがうまく連携していけば課題解決につながるのかという、そういう情報共有の場をつくるプラットフォームを創造したいというふうに考えております。

○委員長（寺田幸弘君） 草賀委員。

○委員（草賀章吉君） そうすると、対象企業というのは、どのぐらいあるのか。そのプラットフォームでオープンにして、皆さん声を上げてくださいというやり方になるわけか。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 当初は、まず市と包括連携協定とか様々な所属の課のほうで結んでいる個別の連携協定とか結んでいる企業、団体がございますので、そういったところがどんなことが取り組めるのかということをもとに明確にして、それをホームページ上にそういった情報を共有するスペースをつくりまして、出していくことによって課題とそこをマッチングさせるための仕組みづくりをしていきたいというものになります。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 今、包括連携などしている、種類別には何社ぐらいずつあるんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 何社ぐらいということですね。

二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 今、包括協定が15協定で、連携協定が27協定、災害協定については200を超えておりますが、208協定等がございます。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） ダブリもあるということですね。

○委員長（寺田幸弘君） 重複している企業があるかということですね。

二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） ございます。1つの協定の中で複数の企業が入っているというような協定もございますので、それぞれの企業の強みというか、どんなことができるのかということを明確にすれば、方向性というか、どうやって連携していけばいいかという方向性が見えてくるのかなというふうに考えます。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） ということは、進め方としては、まずこの250、260の会社に対して今までこういう協定を結ばせていただきましたけれども、具体的にはどのようなことをお考えですかというのを聞いていく、そんな感じから始めるということですか。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） SDGs未来都市の構想の中でも、初年度、認定をいただきまして、翌年度からプラットフォームづくりのほうを取り組んでいこうという考えでございましたので、この2年度目ということ、令和3年度にそういった情報共有の場をつくっていただけらというふうに考えております。

ただ、その中で若干は先駆的に実証的なものに取り組めたらいいなということで、これからそういったところを進めていきたいと考えています。

ごめんなさい、質問に対して答えていなかった。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） すみません、質問に答えていませんでした。

先ほど言いましたとおり、包括協定とか既に協定を結んでいるところに御連絡を差し上げまして、未来都市構想ということでSDGsに掛川市は取り組んでいますので、SDGsの宣言という形でどんなことができるのかという、逆にどんなアクションを起こしたいのかというのを企業側に御提案いただきまして、そこから始めていきたいというふうに考えています。

○委員長（寺田幸弘君） そちらでよろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 度々すみません。

ということは、お聞きして、それでデータベースみたいなものをつくって、みんなでほかの会社も見られるようにするという感じでいいんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 個別的なつながりで新しいイノベーションは起きないと考えておりますので、企業と企業が連携することによって新しい変革したサービスが提案できたりということもございますので、その辺はオープンにした中で連携を進めていきたいというふうに考えております。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員、関連した質問ですか。

○委員（鈴木久裕君） 関連で。

その中で、この委託料で1,085万円ですけれども、この実証実験とそのデータベース化と区分、大体どのぐらいの割合で考えていらっしゃいますか。

○委員長（寺田幸弘君） 答えられますでしょうか、具体的なこと。

二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） おおむね半分ずつくらいで実証実験と推進のほうとを考えております。

○委員長（寺田幸弘君） そのほか質疑はありますか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） その委託の具体的にこの1,085万円という算定をする中で、ある程度委託はどこにしていこうかということも考えていらっしゃると思うんですが、どこにするかということじゃなく、事前に見積りとか積算とかお願いした先というか、ありましたら教えてください。

その1,085万円というのは、ある程度積算があって出されたものですか。その根拠になるのをどういう形で積算したのか教えてください。

○委員長（寺田幸弘君） 積算の根拠ですか。

二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） ホームページ、まず情報共有の場としてのプラットフォームをつくる関係は、ホームページの関係業者となります。連携というか、企業間連携を活性化させて実際動かしていくところについては、何社かからそういった事業について実施できないかということをお願いをして、見積りのほうを取らせていただいている状況です。

○委員長（寺田幸弘君） 草賀委員。

○委員（草賀章吉君） まだちょっとよく理解ができていないんですけれども、プラットフォームを市のホームページ上につくると、その調整役だとか、それも委託しちゃうわけですか。それは、企画政策課の中で誰かそういう役をやるのか、全く業者任せで、今言ったようないろいろ手を挙げ

てもらった、その方々にお願いをしてしまおうとしているのか、どこまで市は関与するのか、どう
なんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 初動の部分については委託でお願いしていきたい
と考えております。ただ、その中で様々な分野ごとのプロジェクトが立ち上がってくると思いま
すので、それについては、その都度、委託の形で実施していくのか、それとも全く別の形を取っ
ていくのかというのは、検討しながら、財源等の話もありますので、その辺も協議しながら、ど
んな形でその事業が、プロジェクトが進められるかというのを議論しながら進めていきたい
というふうに考えております。

○委員長（寺田幸弘君） 草賀委員。

○委員（草賀章吉君） 新しい実験だからいいんですけども、どこかモデルになってこんな
のをやっているのいいよ、面白いなというところがあるんですか、ないんですか、どう
なんですか。

○委員長（寺田幸弘君） どこかの先進事例ということですか。モデルということですか。

二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） 近くではデジタル推進ということで浜松市のほう
が、プラットフォームをつくっております。ただ、掛川市が目指しているのはそこよりも
もう少し違った形です。最初に財源を確保しながらプロジェクトを動かしていくというの
が浜松市の方式なのですが、うちのところはSDGsの形の中から、新たなそういった産
業がもしかしたら生まれるかもしれないし、それがどんなサービスにつながっていくか、
地域課題の解決につながればということで持続可能な社会を目指すためのプラットフォーム
として構築を考えておりますので、ちょっと形は違うのかなというふうに思います。

○委員（草賀章吉君） 了解です。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

ほかに何かありますでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） ネットで市民も見られる、一般の市民も見られるということ
でいいんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 二村課長。

○企画政策課長兼DX推進室長（二村浩幸君） ホームページ上に公開しますので、
一般の市民も見られます。ですので、コミュニティのほうからもこんなサービスが
できたらいいねというのが提

案できたら、そういったのも取り扱っていきたいというふうに考えています。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

ほかに質問ありますでしょうか。質疑はありますか。

〔「なし」との声あり〕

○委員長（寺田幸弘君） それでは、質疑を終結いたします。ありがとうございました。

次に、市長政策室の説明をお願いします。

山田室長、お願いします。

○委員長（寺田幸弘君） ただいまの市長政策室の説明に対する質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 1,900万円のうち、4,000人に商品というか、地元の産物を差し上げるといふことですが、取扱いの事務とその産物代、大体幾らと幾らぐらいの割合ですか、送料もあるでしょうか。

○委員長（寺田幸弘君） 負担の割合ということですか。

○委員（鈴木久裕君） 支出の内訳見込み。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） その商品に係る部分、商品と送料、事務手数料については1,400万円で、その他で委託料の中には広報費、皆さんへの周知ですとか、あとチラシの作成等も含める広報費についてが500万円の内訳とさせていただきました。

○委員長（寺田幸弘君） 1,400万円と500万円。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） その1,400万円のさらなる内訳というのはどんな割合ですか、事務とその商品代、送料と。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） すみません、商品については1人3,000円分。

○委員長（寺田幸弘君） 鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） これは交付金の使い道が地域の特産品ということで、こういう仕組みになったというんですけれども、そもそも今、LINEの公式LINEに登録している人は何人いて、今回の事業で何人ぐらい獲得を目指そうとしているんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 目標ですか。どれぐらいの目標数が出ているかということですね。

山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 今現在、先ほど 9時頃確認した数字ですが、掛川市 9,941人の登録がございます。今、目標としましてはこちらを 2万人。

○委員長（寺田幸弘君） 鈴木委員、よろしいですか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） この 9,941人の人も改めてアンケートに答えればチャンスがあるのか、新たに登録した人だけなのか、そのあたりどういう枠組みで考えていますか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 既に登録していただいた方も対象になります。

○委員長（寺田幸弘君） それでは、草賀委員。

○委員（草賀章吉君） アンケートですけれども、どういうことを聞こうとしているのか、このLINEによって何を求めているんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 先ほどの本会議で市長からお話した、氏名と住所はあるんですが、それ以外には性別ですとか年代、あと欲しい情報というところで、これから発信するに当たってそういった分析をして、どういった情報が必要とされているかというところを把握するために、今回アンケートを取らせていただきます。

○委員長（寺田幸弘君） 草賀委員。

○委員（草賀章吉君） ということは、求めているものが分からないというのは、求めているものを聞きたいというアンケートなのか。こっちから想定して、どうなんですかというようなアンケートではないわけか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 2月議会のほうで、今年度の当初予算のほうでセグメント配信という予算をつけていただきました。そこは皆さんに登録していただく際に、本来はそのセグメントという機能によって欲しい情報、受け取りたい情報を選択していただいて、その情報だけをその方に届けるという仕組みをつくっていきたいと考えておりますので、そこにつなげるために今回アンケートを取ろうと思っております。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

山本委員。

○委員（山本行男君） もう公式LINEの登録を増やそうと、こういう緊急のときにやっぱりそ

ういう情報って欲しいじゃないですか。そういうところはいろいろな手段でそういう連絡を流していくという、それは私はいいいことだなと思う。もう一つは、そこにやって経済の活性も含めて、特産物もやりますよ、この部分はいいいと思っているんだけど、例えば、今、ワクチンのいろいろ説明なんか載っている、要するにスマートフォンを持っているけれどもなかなか使いにくいね、応援隊みたいなのがまた出てくるじゃないですか。こういうときも、そういうPRも兼ねてぜひ登録をしてくださいという、要するに公式の登録をそういう場を利用して、ついでにその場でしてもらっちゃうようなこともやってもいいんじゃないかなと思うんです。私ね、自分のLINEでヤマチャンブログって持っています。そこでぱっとやると、非常にやっぱり早くいろいろ連絡が流されて、結構皆さん目を通してきている。やっぱり緊急のとき、災害も含めてそうだと思うけれども、こういうチャンネルというのが物すごく大事だと思っていて、そういう意味ではどんどん増やしていけば、市のほうでもあれがぱっとかなりの住民の皆さんに伝わって、防災とかいろいろなときに情報って命に関わる話が入ってくるから、私はいいい事業じゃないかなと思っていて、目標が2万でプラス1万だということだけれども、欲を言えばもっともっとういこうのを展開しながらやっていったほうがいいんじゃないかなと思うし、市長も今度そういうデータも人材も公募するよみたいなことを言っていますので、そういう新しいツールをまたそういう分野でつくっていくことの一つの発信じゃないけれども、いいことだなと思います。

それで、特産物、特産物と言うけれども、どんな品物が実際選定されているのか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 選定はまだこれからです。考えているのは、そういった生産者等の農産物と、あと、お菓子でいうならば贈呈品、訪問して手土産等が、そういった機会がなくなった関係でのそのお菓子類ですとか、ただ、そこに関わらず、いろいろな調味料であったりとかお茶も含めて、今、掛川の特産品である葛も全て含んだ形で考えております。

○委員長（寺田幸弘君） 山本委員。

○委員（山本行男君） そうすると3,500円で500円が手数料とかいろいろなことでかかるよ。実質3,000円じゃん。その3,000円の中の商品でということでもいいのかな。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） そのとおりです。

○委員（山本行男君） 了解です。

○委員長（寺田幸弘君） ほかに質問ありますでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 委託先は1つまとめて委託ということですか、それとも広報分と商品発送分は分割して委託するのか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 一緒に委託したいと考えております。

○委員長（寺田幸弘君） 鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 先ほどの商品の選定なんだけれども、今、ふるさと納税で既にかなり登録しているものがあると思うんですけれども、そういったところは別連携というか、そういったふるさと納税の返礼品として登録してあるところのデータとかももらっていくのか、それとも全く新たにこれに取り組んでいくのか、その辺の考え方はどうでしょうか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） そこも含めていろいろなところを探していきたいと思っております。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） セグメント配信を考えているということですが、セグメントを増やしたら大変になっちゃうと思うので、行政として一番効率的なセグメント数は大体幾つぐらいを想定して中身を聞いていくのか、その辺、考え方があったら教えてください。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 数はこれからなんですけど、例えば子育て論や防災、観光、あと行政全般、暮らし、あと教育のところを、今、主には考えているんですが。

○委員長（寺田幸弘君） いろいろな分野ということですね。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） このセグメントの中に、例えば市のホームページで新着情報を出しているじゃないですか、いろいろな分野だけれども、新着情報という、そういう配信の、新しい情報、何でもとにかく市から新しい情報が出たときにそれを見たいとかって、そういう人もいるかな、それはアンケートの答えでいいのか。そういうのを聞いていくということなんですね。分かりました。

○委員長（寺田幸弘君） 草賀委員。

○委員（草賀章吉君） 今のそのセグメント、ハード情報は分かりやすい、年齢や男女とか、そういう構成は分かると思うんですけれども、例えば何を求めているというのは結構変わるじゃないですか、人間って。1回アンケートしても、またアンケートしなきゃいけないと、我々がネットを使

ったとき何か買物をする、この人はこれが好きなんだと、次にやたら送ってくるようなケースあるんだけど、そういうことはやらないわけでしょう。例えばホームページの中で何をこの人は見に来たのかというのが履歴に残っていると、そういうこともできるようになっているんですか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） 受信の設定というところで、そのLINE上で常に、一度選択をしていただいても配信されているうちに、この情報は必要ない、この情報が欲しいというものが常に更新できるような形がつかれるようになっていきますので、そこで切り替えて。

○委員（草賀章吉君） こちら側じゃなくて、例えばホームページ側、見るほうで、この人は前はこの情報を欲しがっていたようだけれども、最近どうも見ていると、ここのところによくアクセスするねというような履歴が残って行って、ああ、この人は今こういうものを求めているんだというところまでセグメントできてというようなことまでできるのか、できないのか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） まだそこまでの具体的な仕組みだったりとかというのがまだ確定されておりません。そういった仕組みについても少し検討というか議論をしていきたいと思えます。

○委員長（寺田幸弘君） 諸問題について詰めていただくということですね。

草賀委員。

○委員（草賀章吉君） 行政がやることの市民のニーズだとか、そういったものを聞き取りたいとか、何を欲している、何を今課題と思っているかということが重要であって、何かを売りつけるみたいな話とは全く違うので、それはやっぱりしっかりと整理をしていただいて、本当に市民にとっていいやり方になるようにぜひお願いしたい。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 今、これ一応県の交付金が9月末までに完了しなきゃいけないということだったと、その辺で今のスケジュール感、大丈夫ですか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） そののところも踏まえてスケジュールを立てておまして、今考えているのは、2回に分けて8月までには商品、そういった発送等も終了させていく予定であります。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

その他質疑はありませんか。

山本委員。

○委員（山本行男君） これ、LINEの例の問題があったじゃないですか、要するに閲覧できるという、個人情報というものが。これ時々まだ聞かれる人がいるんです。そういうことがあってやめちゃった自治体もありましたよね、ワクチンの取下げされたと。こういうことを大々的にまたやるとなると、そういう質問というか、そういう人は大丈夫かというような感じのところもあると思うんですよ。これ、掛川市の見解としては、そこはもうセキュリティーがかなりまた上がってきて、大丈夫だよということを読んだことはあったけれども、実際掛川市が調べたところがあればどう思いますか。

○委員長（寺田幸弘君） 山田室長。

○市長政策室長（山田京子君） LINEについては、LINEはあくまで入り口と考えております。その入り口を通して実際に個人情報を入力というか、情報をいただくのは市の管理しているシステムのほうで入力していただいて管理をする予定ですので、LINE上で個人情報を持つということはありません。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

○委員（山本行男君） 結構です。

○委員長（寺田幸弘君） 鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） 数あるこういうSNSのツールの中で、なぜLINEにしたという、もちろん登録者が多い、みんな日常的に使っているということがあるんでしょうけれども、そのところを行政としてこの既存のものを選んだということについての、その辺の一応説明をお聞きしてみたいです。

山本部長。

○理事兼企画政策部長（山本博史君） 1つは、LINEの登録者といいますか、利用者、ユーザーが多いということが1つ。それから、掛川市とLINEユーザーが直接つながることができるということが1つ大きな選択のポイントになりました。ツイッターとかフェイスブックがありますが、これについては、どうしてもフォロワーを増やしていくときに、どちらかという市からの一方的な情報発信ということになりますので、先ほど山本委員がおっしゃいましたように、災害時とかそういったときに双方向で連絡が取れるような形が一番情報の在り方、通信の在り方として一番効果があるんじゃないかということで、今回はLINEを選択をしました。

ただ、これからSNSにいろいろな種類があるものですから、それについては新市長の中でもそういった戦略広報というようなことを言っていますので、そういった中で組立てをしていきたいと

いうふうには考えています。

以上です。

○委員長（寺田幸弘君） よろしいでしょうか。

それでは、質疑を終結いたします。ありがとうございました。

質疑が終わりましたので、ここで委員間討議をお願いいたします。

意見のある方はお願いいたします。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕君） まだ走りながらやっていくという感じではありますけれども、経済活性化ということの中で、既存の市の民意をうまく取り入れたということだから、うまくいくようにお祈りをしたいなと思いますけれども、ぜひ、特に目標も多分LINEのほうは2万人という明確な目標も出ているので、ぜひそれ以上になるように頑張ってもらいたいなと思いました。

○委員長（寺田幸弘君） 鈴木委員からの今の意見に対して御意見のある方はお願いいたします。
よろしいでしょうか。

〔「はい、結構です」との声あり〕

○委員長（寺田幸弘君） それでは、そのようにできるだけいっぱい増やしていくというようなことで努力していただきたいということでございます。

以上で委員間討議を終結いたします。

討論はありませんか。

〔「なし」との声あり〕

○委員長（寺田幸弘君） 以上で討論を終わります。

それでは、採決に入ります。

議案第83号、令和3年度掛川市一般会計補正予算（第5号）について、第1条歳入歳出予算の補正のうち、歳入中所管部分、歳出中、第2款総務費、第1項（35目を除く）について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手をお願いいたします。

〔賛成者挙手〕

○委員長（寺田幸弘君） ありがとうございました。

同委員会に分割されました議案第83号については、全会一致にて原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

その他、当局から何かございますでしょうか。

〔発言する声なし〕

○委員長（寺田幸弘君） 委員の皆様から何かございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○委員長（寺田幸弘君） それでは、閉会に当たり、副委員長より挨拶をお願いいたします。

○副委員長（藤澤恭子君） お疲れさまでございました。

大変短時間の中で深い審議ができたのではないかなと思っております。

これから 1か月ありますけれども、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（寺田幸弘君） 以上で、総務委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午前11時29分 散会